

28P-am001

マオウの国内栽培に関する研究・

○矢原 正治¹, 新留 美穂子¹, 飯田 修², 菱田 敦之²(¹熊本大院・薬, ²基盤研・薬植セ)

【目的】マオウの国内生産及び栽培技術を確立するため、2002年～2005年にかけて栽培試験を行い、地上部の生育およびアルカロイド含量に及ぼす窒素肥料の影響を検討したので報告する。

【供試材料】薬植セ・筑波研究部系統番号 Ep. 13 (1956年アメリカより種子で導入した *Ephedra distachya*) を供試した。

【栽培方法】[育苗]2002年4月2、4日に横走根を調製し、1年間苗床で育苗した。
[定植] <ポット試験>2003年3月25日に1/5000アールの塩ビポットに定植した。ポット当たり窒素成分量を0, 0.5, 1.0, 2.5gを基肥および毎月追肥した。各試験区10個体を供試した。<圃場試験>2004年3月24日に定植。1年間肥培管理を行い、2年生株に窒素量を0.5倍、1.0倍、2.0倍量に変えて3回(4/19、7/27、9/13)追肥した。

[収穫]<ポット試験>2003年11月21日に各試験区5個体ずつを採取。

<圃場試験>2005年12月27日に各試験区10個体ずつを採取。

採取した試料はただちに60℃温風で3～4日間乾燥した。

[アルカロイド含量、植物中の窒素量の定量]エフェドリン、プソイドエフェドリンの含量の分析は、日本薬局方に準じて行った。植物中の窒素量の分析は、元素分析を用いて行った。

【結果】アルカロイド含量はほとんどの株で局方値はクリアしていた。窒素付加した株は普通の栽培株よりもアルカロイド含量が高くなっていた。

細かいデータについて学会で報告する。